

10.1 論文を書くために

高校生までと違い、大学生になると論文を書く機会が増えます。大学生の論文と言えば、すぐに思いつくのは卒業論文です。皆さんの中でも多くの方が、4年生になれば卒業論文を書かなければならないでしょう。また、各授業で課されるレポート課題にも、論文形式のものがあるのではないのでしょうか？すでに、そのようなレポートを書いた経験がある人も多いでしょう。

論文を書くというのはかなり大変な作業です。短いレポートなら数週間で書けるかもしれませんが。卒業論文ともなると、数ヶ月から1年以上準備をして挑むことになります。しかし、恐れることはありません。指導にあたる教員の先生は丁寧に論文の書き方を教えてくれるでしょう。また、論文の書き方を説明した本もたくさん出版されています。それらの中のいくつかは、図書館で借りることもできます。本書もまた論文作成支援を目的の1つとしています。

論文作成は、いくつかの段階を踏んで行います。おおまかには、テーマの設定 → 文献・情報の収集 → 実際の執筆という流れになります。分野によっては、実験や調査などの作業も加わってきます。本書は、論文作成の手順の中でも文献・情報の収集に絞った内容になっています。文献・情報の収集には図書館が深く関わっています。テーマの設定や実験、調査などについては、より詳しい図書がたくさんあります。また、皆さんの指導教員がもっとも詳しいでしょう。そちらに説明を譲りたいと思います。

さて、本書は文献・情報の収集に絞った内容と言いましたが、この第10章「論文を書こう」ではごく簡単に実際の論文執筆について扱っています。なかでも引用文献・参考文献の書き方については少し詳しく説明します。図書館を利用して収集した文献を論文作成に利用した場合、引用文献・参考文献として明記する必要があります。この方法について例をあげてみていきます。

しかしまずは、論文とはいったいどのような文章なのかをみていきたいと思います。